別紙1

平成31年度　指導方法等の改善計画　　三原市立幸崎小学校

1　課題と取組について

本年度の結果について

○取り組みの成果と課題
　昨年度の結果として，国語は，目的に沿って文章を書く力に課題があった。そこで，テーマを与えての文章つくりを「えんぴつタイム」や日記，授業のまとめや振り返りで行った。その結果，「話し手の意図を捉えながら聞き，自分の考えをまとめる」問題は，93.8%，「目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書く」問題も，75%と，県平均をそれぞれ21.4ポイント，40.7ポイント上回った。
○本年度の調査から明らかになった課題
　算数科においては，「示された計算の仕方を解釈し，減法の場合を基に，除法に関して成り立つ性質を記述」する問題では，必要な条件満たした回答にならず，「商」を「差」と表現して，算数用語の理解が十分でないことが明らかとなった。
　国語科の課題としては，同音異義語を正しく使うことができていないが挙げられた。.

課題克服に向けた重点取組

○前項での取組について
　各学年でつける力をねらいを明確にして　地道につけていくための授業改善に取り組む。
「えんぴつタイム」は，①目的に応じて書く，②推敲する，③清書する，の3段階で指導する。
　各教科で，複数の情報を取り出し，関連付けて考える機会を増やしていく。
○授業改善について
　算数科においては，授業の中で算数用語を日常的に使って説明させ，定着を図る。また，具体物の操作を取り入れて，図形の構成要素などの理解を深める。
　国語科においては，言語についての知識理解が定着するような授業での指導，個別学習，家庭学習を工

2　平成31年度の結果（全国学力・学習状況調査）

教科	国語	算数
目標値 （対県比%）		
結果 （対県比%）	88 （130%）	77 （113%）

3　2学期の取組についての成果と課題

【全校での取り組みについて】
・全教職員で全国学力テストの問題を解き，正答率の低かった問題の誤答分析を行い，本校の課題と課題に対応した改善計画や指導内容の工夫について研修を行った。（8月23日）
・改善計画を基に，課題克服に向け，全教職員が各教科のどの単元で実践するかを共有する。
・「標準学力調査」も視野に置きながら個別の実態把握をもとに基礎学力定着に向けた取組計画を立てる。
・「えんぴつタイム」や「ドリルタイム」を確実に行い，知識・技能の定着を図る。
・読書への意欲づけを図り，読書量を増やすとともに，復習ん簿本や資料などに書かれていることを比較，分類，関係づけるなどして，思考力，判断力，表現力の向上につなげる。

【2学期の取り組みの成果と課題】
・「えんぴつタイム」や「ドリルタイム」「チャレンジタイム」などの時間に，複数体制で課題克服に向けた，知識・技能の定着を図る問題に取り組んだが，十分に定着させることができなかった。
・全体での取り組みをしたものの，成果を上げることにつながらなかったのは，個別の課題を細やかに把握できておらず，個に応じた支援が不十分だったためだと捉える。
・授業における学級や個の実態把握，それに基づいたねらいの明確化，授業の展開に課題があった。

【授業改善について】
・校内授業研究や学校訪問，参観日などの授業において，ねらいを明確にした授業づくり，授業改善に向けて，板書交流やミニ研修を行う。
・ねらいを明確にして，構造的な板書を工夫し，子供たちに基礎的な力をつけるための授業改善に努める。
・主体的，対話的で深い学びのある授業づくりに向けて，日々の授業改善に取り組む。
・カリキュラムマネジメントの視点を持ち，他の教科とも関連させながら，スパイラルに学習の定着を図る。
・1時間1時間の授業を大切にし，協働的な学びを通して，学びの質をより深いものにしていく。
・「順序だてる能力」「比べる能力」「関連付ける能力」「予想する能力」の思考スキルを活用し，「言葉の力」，思考・判断・表現する力をつけるための授業改善に取り組む。

【2学期の取り組みの成果と課題】
・「順序だてる能力」「比べる能力」「関連付ける能力」「予想する能力」の思考スキルを十分焦点化することができず，授業に位置付けることが不十分で，思考・判断・表現する力をつけるための授業改善になっていなかった。
・ねらいやつけたい力を明確にして，その時間につけたい力は子供たちについたのか，自分の授業を振り返り評価し，日々の一時間一時間の授業の積み上げを大切にしていく。

4　平成31年度　標準学力調査の結果

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	70.7	78.5	83.8	83.6	74.9	80.9
算数	85.1	74	77.4	78.7	70.6	89.6
理科			74.8	57	67	72.1

5　分析と取組

【誤答分析の方法】
・全教職員が，自分の取組のどこに課題があったのかを明らかにしながら，誤答分析を行った。例えば，説明的な文章の読み取りが難しいのは，時間的な順序や事柄の順序を考えながら読み取らせていなかったり，段落相互の関係に着目することが不十分だったりしたためと捉えた。また，主語，述語の対応など，低学年における基本的な事項が定着しきれていない面もある，ととらえている。
・分析結果を全体で交流し，各学年の課題のみならず，指導と評価を一体化し，適切な評価をすることで子どもの学びをより主体的なものにしたり，教師が自己の指導をふりかえる，という学校全体の課題を確認した。

【分析に基づく各学年の取組について】
・低学年では，国語科でつけたい力を明確にした授業づくりに丁寧に取り組む。また，6年間の学習の基礎となる学習規律を定着させる。算数科では，文章題の数字や演算につながるキーワードに着目させたり，問題場面を把握させ，絵や図を使って表現させ立式につなげる。中学年では，国語科において，授業の初め等に計画的に言葉の学習を取り入れたり，漢字の宿題を出した翌日にミニテストを実施したりして，評価することで定着を図るとともに児童の意欲につなげる。算数科でも同様に基礎的事項を定期的に評価し，目標を持たせながら授業を進める。高学年では，国語科における単元末の言語活動と日々の授業のねらいを明確にするとともに，協働的な学びを通して学びの質をより深いものにしていく。算数科では，算数用語を適切に使った説明ができるよう，授業の中で学び合い，説明し合う場面を大切にする。また自己の課題を把握させ，目標を設定しつつ次のステップに向かうなど，主体的な学習を進めていく力をつける。理科については，理科用語の定着を図るとともに，課題設定・解決学習のプロセスを大切にして授業改善を図る。
・正答率40%未満の児童については，個別の課題をより細やかに把握し，つけたい力をつけるための個の課題に応じた支援を日々の授業の中で行っていくとともに，自己の課題把握と目標設定，肯定的な評価を大切にして積み上げていく。

6　平成31年度 3学期の取り組み計画

【全校での取り組みについて】
・標準学力調査の誤答分析をして，不十分だった点を今後の授業で改善していく。例えば，「目的に応じて書く」ことについては，えんぴつタイムなどで，テーマにそって書くことには取り組んでいるが，日常的に原稿用紙を使って，書いたことを読み返し，自分で修正する力をつけていく。「読むこと」については，長文を読むことにふだんから慣れさせ，抵抗を少なくするとともに，大切なところに線を引く，事柄の順序や文章の組み立てをとらえる，叙述や描写に即して行動や心情をとらえるなど，説明的文章，文学的文章の「読むこと」のねらいを明確にした授業を行い内容をとらえる力を伸ばす。
・個の課題を明確にし，つまづきに対する指導を丁寧に行うとともに，個々の目標設定と適切な評価を行い児童の意欲を高めていく。

【授業改善について】
・ねらいを明確にして，思考の流れがわかる構造的な板書を工夫し，子どもたちに基礎的な力をつけるための日々の授業改善に取り組む。
・評価を適切に行い，子どもの学び根の意欲を高めるとともに，教師が授業を振り返る。

7　次年度の正答率（全国）

教科	国語	算数
目標値 （対県比%）	65 （95%）	65 （95%）
結果 （対県比%）		